

令和7年度 第2回山梨支部評議会 資料③

運営委員会の報告等について

- ・ 令和7年度 運営委員会・支部評議会のスケジュール
- ・ マイナ保険証への円滑な移行に向けた対応について
- ・ 協会けんぽDXについて（電子申請、けんぽアプリ）



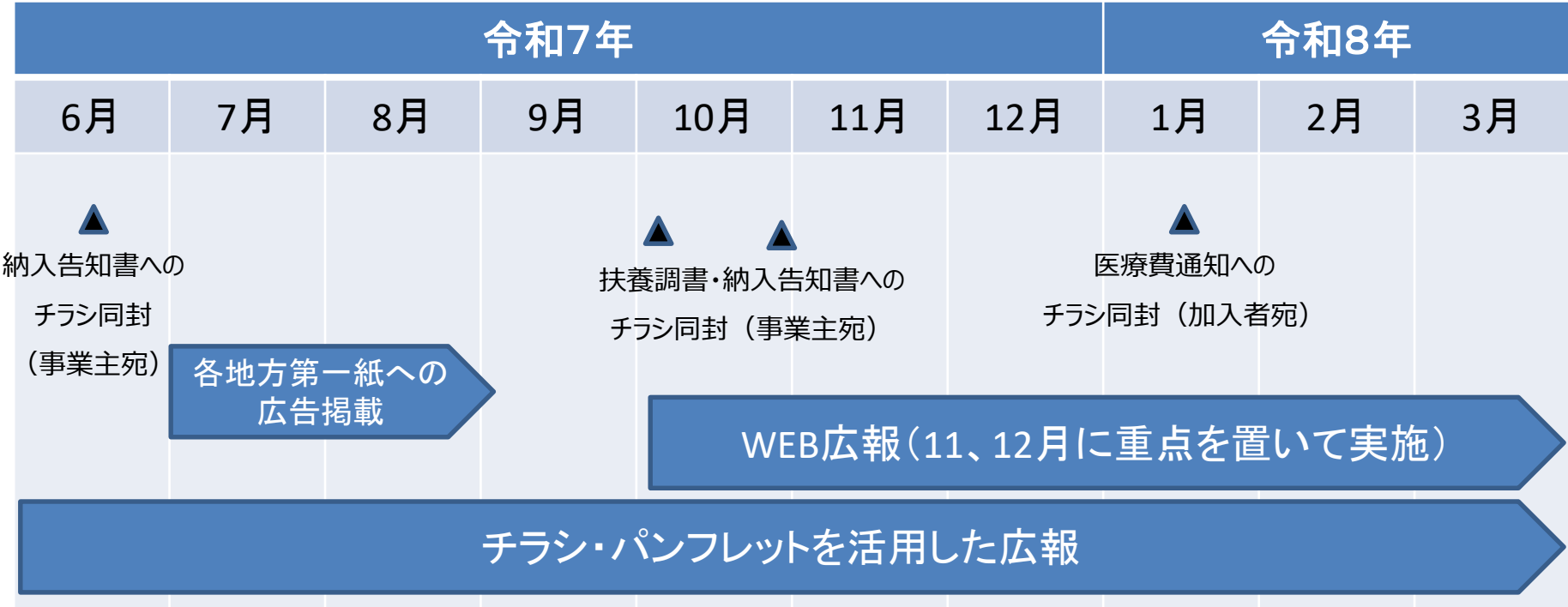
令和7年度 運営委員会・支部評議会のスケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
運営委員会	7/24		9/10		11/28	(12/15) 12/23	1/29	(2/12)	3/24	
	決算・事業報告				事業計画(R8年度)					
					予算(R8年度)					
	収支見通しの前提		平均保険料率			都道府県単位保険料率				
支部評議会				平均保険料率			都道府県単位保険料率		(保険料率の広報等)	
				支部事業計画・支部保険者機能強化予算の事前意見聴取			インセンティブ制度R6年度実績の評価			
					支部の事業計画(R8年度)					
					支部の予算(R8年度)					
国・その他				診療報酬改定 調査・検討・議論			診療報酬改定案 諮問・答申		関係告示等	
						政府予算案 閣議決定	保険料率の認可等		事業計画、予算の認可等	

マイナ保険証への円滑な移行に向けた対応について

経過措置終了に向けた広報の実施について

令和7年12月2日以降、経過措置期間が終了し、健康保険証が使用できなくなることから、12月以降の保険診療の受診方法や、マイナ保険証のメリットや使用方法、安全性などの利用促進について周知広報を実施する。あわせて、最近の動向を踏まえ、マイナンバーカードの電子証明書の有効期限切れへの注意喚起や、スマホ保険証についての説明も行う。



(参考) 地方第一紙への広告掲載

令和7年7月から8月において、マイナ保険証利用促進のため、各都道府県地方第一紙に以下の広告を掲載した。

協会けんぽ 加入者のみなさまへ

これからは
医療を受けるなら
マイナンバーカード。

保険証は、マイナ保険証へ。

※マイナ保険証をお持ちでない方も、資格確認書があればこれまでどおりの医療が受けられます。
詳しくは協会けんぽHPをご確認ください。

忘れずに！



全国健康保険協会 協会けんぽ

〒164-8540 中野区中野4-10-2 中野セントラルパークサウス7階

お問い合わせはこちらまで

協会けんぽマイナンバー専用ダイヤル

TEL 0570-015-369

8:30～17:15 (土日・祝日・年末年始を除く)

これからは、
マイナンバーカードを持っていけば、
「マイナ保険証」として使用いただけます。



マイナンバーカードを持って病院へ

受付のカードリーダーにマイナンバーカードを置く。

顔認証などで本人確認。「マイナ保険証」として使用できます。

※カードリーダーはモデルが異なる場合があります。



協会けんぽ LINE 公式アカウントでは
健康情報を配信中！
友だち追加はこちらから！

4

協会けんぽDXについて（電子申請、けんぽアプリ）

電子申請の導入

背景・目的

加入者の利便性の向上や負担軽減及び業務効率化のため、政府の「デジタル・ガバメント実行計画」及び「デジタル社会の実現に向けた重点計画」に基づく電子申請サービスの導入を推進することとし、令和8年1月のサービス開始に向けて、準備を進めています。

電子申請の利用方法

利用対象者

被保険者、被扶養者（一部申請に限る）、社会保険労務士（保健事業は除く）
※被保険者と被扶養者は、マイナンバーカードで本人確認を行うため、マイナンバーカード所持者が利用可能。
※社会保険労務士は、事前にユーザーID/パスワードを取得することで利用可能。

利用可能時間

平日8時～21時
※土日祝日および年末年始（12/29～1/3）を除く

申請の流れ （概要）

- ①「協会ホームページ」または「けんぽアプリ」から電子申請サイトにログイン。
- ②希望する申請書を選択し、マイナンバーカードを利用（被保険者および被扶養者）して協会けんぽの資格情報を取得。
- ③申請情報を入力して必要な添付書類を電子ファイルでアップロード。
- ④申請完了。給付金等については「受付」「審査中」「審査完了」「返戻」など、審査状況が確認可能。

けんぽアプリの概要

1. 開発の経緯

- 令和6年12月2日より従来の保険証の新規発行が終了し、マイナ保険証へ移行。
- 協会のサービス等は、事業主経由によるものが多く、加入者に直接アプローチできる手段が少ない。
- 政府が推進する「医療DX」は医療のデジタル化を通じて業務効率化や「患者中心」の医療サービスの実現を目指す仕組み。一方で協会は、加入者4,000万人の日々の健康を支える仕組み「けんぽDX」の実現を目指す。
- その第一歩として、「加入者4,000万人とつながるプラットフォーム」となる「けんぽアプリ」を開発し、加入者4,000万人一人ひとりに直接届くサービスや情報を提供することで、更なる保険者機能強化を図る。

2. けんぽアプリで実現すること（将来像）

- 協会が現在、提供しているサービス（保険給付や健診、特定保健指導、広報等）を「紙」から「デジタル」に移行し、また、ベストなタイミングで受けられるよう、けんぽアプリに実装。
- 加えて、これまで協会で実施していなかった「健診予約」や「デジタルな健康手帳」等、加入者の利便性向上に資する機能も実装。
- 更には、他保険者を含む外部機関と連携する等サービスを拡充し、加入保険者に関わらず利用できるアプリへ。

令和8年1月にサービスイン予定の「バージョン0」では、まずは、電子申請やコンテンツ配信を中心にスタートします。サービスイン後は、利用者の声や得られたデータを検証しながら、段階的に機能拡充を行います。

けんぽDX構想

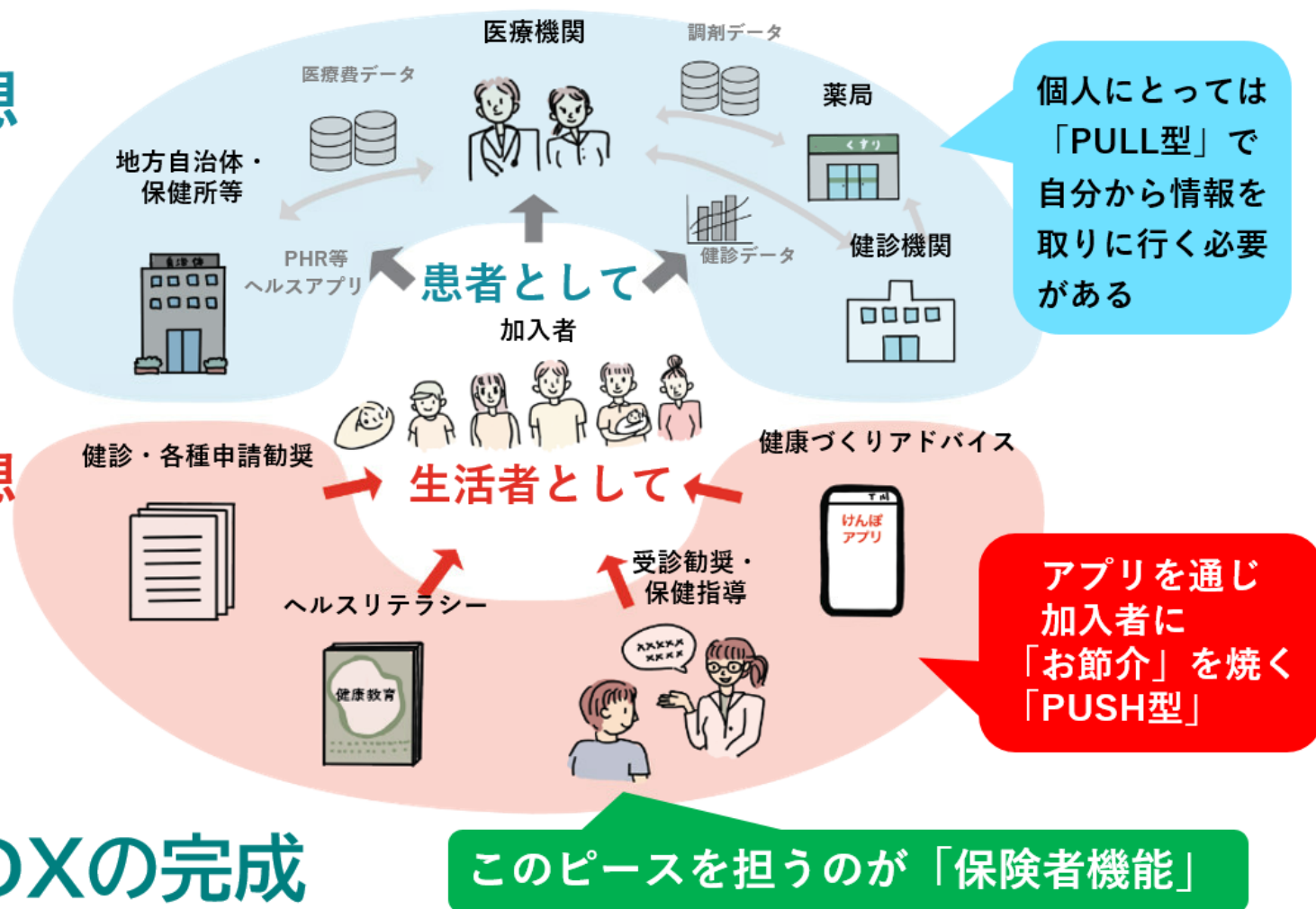
医療DX構想
=PULL型



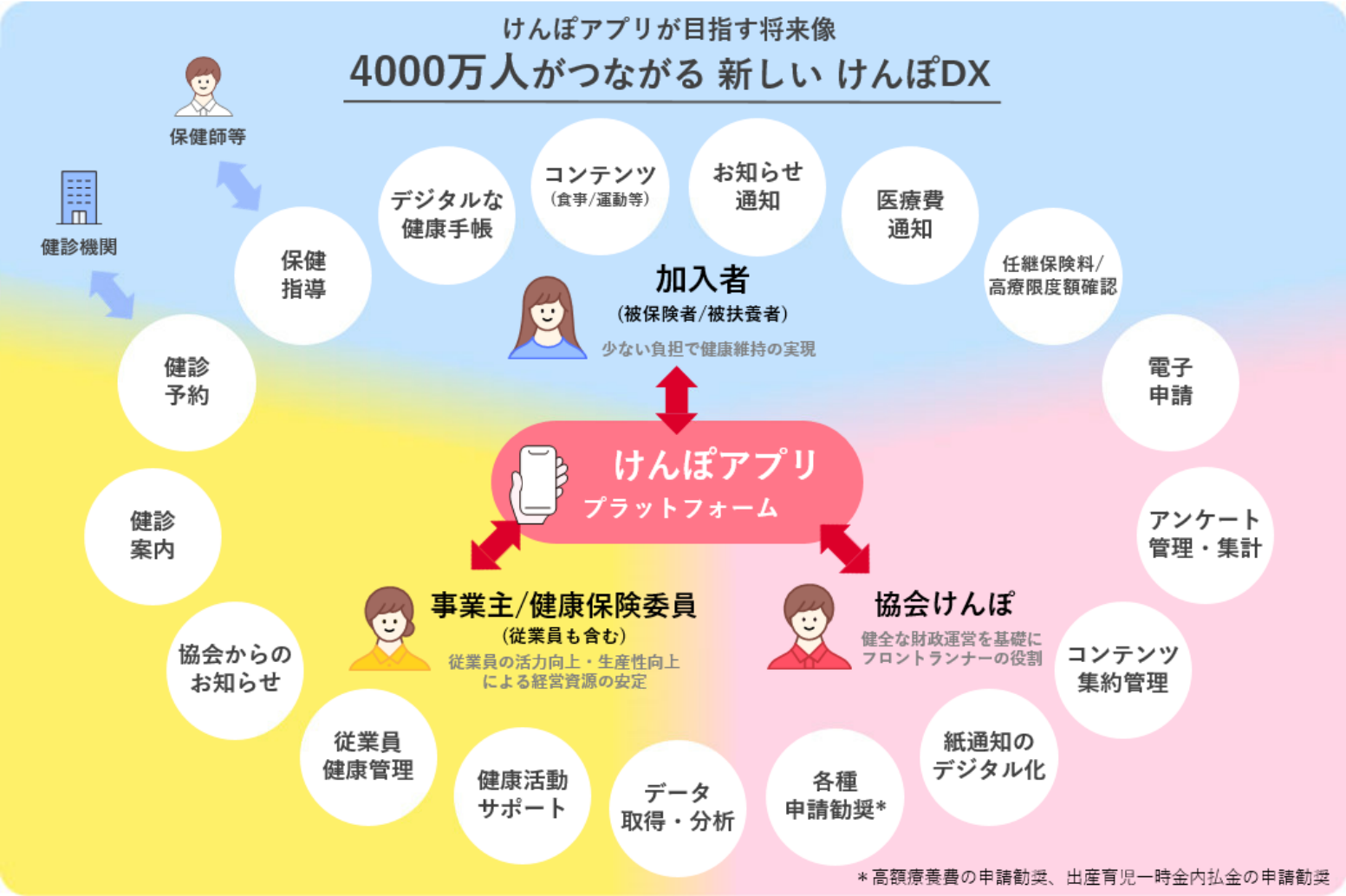
けんぽDX構想
=PUSH型



医療・健康DXの完成



けんぽアプリの将来像



けんぽアプリの主な対象

- 加入者**
(被保険者・被扶養者)
約4,000万人
- 生活習慣病予防健診
受診対象者人数
約1,900万人/年
- 総申請件数
令和8年1月の電子申請開始時に対象となる適用徴収や現金給付における現在の総申請件数
約560万件/年
- 特定健康診査受診対象者数
約380万人/年
- 保健指導対象者数
約210万人/年
- 初回面談実施 (直営)
約22万人/年
- 事業主/事業所**
事業所数：**270万** 事業所
- 健康保険委員：**33万人**

※上記けんぽアプリの機能については今後の検討状況により変更する可能性があります。